

5・3兵庫憲法集会 メインスピーチ

5・3兵庫憲法集会でスピーチを行った
岡山澄子さん(ピースボート共同代表)のお話(2) (要旨)

ピースボートから見た戦争と平和

【前号からのつぎ】
被爆者と一緒に世界一周の旅をしていた韓国の大学生が言ってくれたことがある。「被爆者の話を聞いてほんとうに心が痛む。こういう経験をしなければならなかった人がいるということは許せないし、自分も核兵器に反対だ。でも一方で、世界で日本の被爆者の人たちが「平和の大使」「平和の使者」みたいな感じで受け止められるのを見るとちょっと胸がざわつく。自分のおじいちゃんやおばあちゃんたちがかつて日本軍のやったことで苦しんだということがなかったことになるのかと。その時に私は、同じ21世紀を生きる東アジアの人間として共に平和な未来をつくらなければならぬ、一緒にどういっ

史をつくっていくのかを考へなくてはいけないなと思った。
でも、かといって私は、被爆者たちの経験したことが軽視されるべきだとは思わないし、だからこそ、誰にでも起きてはいけない非人道的なことをして訴えていかなければ、と思うようになった。
犠牲の上に成り立つ世界を変える
もうひとつ、私が世界を回りながら気づいたことは、世界に被爆者がたくさんいるということだ。それまで、私には運動の経験がなく、被爆者は日本にしかないと思っていた。しかし、タヒチに行ったらフランスの核実験で被害を受けたという人がいた。オーストラリアに行ったらイギ

リスのウラン鉱で別の核実験の被害を受けたという人がいた。アメリカという、核兵器を持って核兵器で守られていると思っていた国でも核実験の風下の住民として被曝した人もいたり、ウランの採掘で被曝する人もいる。私がやると気づいたのは、核兵器がある世界でいいということは、命を選別して、大きな安全保障のためになら、多くの人たちを守るためになら、少数の人たちの権利や幸せや当たり前に生きるということを蔑ろにしているという価値観を持つことなんだということだ。それは、核兵器だけでなく戦争を良くすること、戦争が必要だということ、そのしわ寄せを脆弱な立場の人に押しつけることと同じだと思

った。
私はそのことを知ってから、そういう犠牲のシステムの上に成り立つ世界を変えたいと思うようになった。
あの時、リーダーシップをとっていた国はたくさんあった。議長を務めたコスタリカやメキシコやそういう国の外交官と話していると、驚くほど多くの人が、自分の原点は被爆者の声を聴いたことであり、平和運動のた

め、一生懸命署名を集めた人が国連でその署名を手渡す姿を見たことだったと言った。
その時に、私はやはり草の根の運動は意味があると思った。すぐ明日に成果が出るわけではないかもしれないし、もしかしたら自分の生きていくうちに成果が見えるわけではないかもしれない。でも、今日私たちがやっていることが未来の誰かにつながると思っ

たり続けていることが大事だと思っ

戦争の記憶を若者から後世に
高校生平和大使が発言
第11回東灘憲法カフェ

憲法を生かす会・東灘とろっころ医療生活協同組合が主催する第11回東灘憲法カフェが5月31日、神戸市東灘区内で開かれた。今回のテーマは「戦争の記憶を若者から後世につなぐ 未来への架け橋」。若い人の発言を聞きたいとこれまでより多くの参加者が集まった。
カフェではまず、東灘区在住のTさん(90)が広島での辛い被爆体験を手書きの地図を示しながらリアルに惨状を説明し、



東灘区在住の被爆者、被爆2世、高校生と3世代からの発言があった東灘憲法カフェ = 5月31日、神戸市東灘区

紹介しながら力強く発言。稲中さんは最後に、「自分たちは被爆者から直接話を聞ける最後の世代。私たちが責任をもって平和に向けた取り組みを進めていきたい」との決意で発言を締めくくった。
アンケートでは、「高校生平和大使の活動報告が聞けてとてもよかった。希望を感じた。支援したい」などの共感を示す感想が多く見られ、3世代の報告から「未来への架け橋」が感じられる会とな

った。
という大きなバナーを船体に掲げて各地の港でアピール運動してきた。
それと同時に賛同金を集めて少しでも野菜を届けるキャンペーンを展開してきた。それを見たガザの人が言ったことは、「このキャンペーンはたんに野菜だけではなく、希望を届けてくれたらいいんだよ。こういう戦闘のさ中にあるときに、一番辛いのは、世界中から見放されていると思うことなんだ。だから意味がないと思わないで、声を上げ続けてほしい」ということだった。それは、ウクライナの人たちにとっても同じだと、ピースボートに乗っているウクライナ出身の船長さんからも言われた。
もちろん戦争になったり、医療品も必要だし、食料も必要だ。だけど、世界の人たちとつながっている、世界の人たちは自分たちを見捨てていないんだよ、そのエー

「つなぐことが明日を生きる希望」
では、これからどうしていくか、私は日々考えている。
去年、中学生25人くらいが、夏休みにピースボートに2週間乗ってくれたことがあった。その時と同じ船に乗っていた早稲田大学でアラブ文学を教えている岡真理さんという、ガザのことをたくさん発信している方が、「レスボンシティ」という言葉を知っているか、と聞いてくれた。レスボンシティを「責任」という意味の英語だと習っているだろうが、たし

「先々月、アメリカの学生が広島と東京で兵器に関するフィールドワークをしたとき、最後の感想として、「たぐさんの被爆者の人たちから『この話のせひ他の人に伝えて』と言われたことが非常に印象的だった」と言われた。この話はよく聞く話だが、その学生は続けて「そういう時、自分も歴史の一部だということにものすごく強く気がついた。いま、自分がどういっ行動をするかで、核兵器の歴史に関する、あるいは、戦争が起き

る日本被団協のノーベル平和賞受賞からも勇気
もうひとつは、昨年の日本被団協のノーベル平和賞の受賞だ。一方でちょっと遅かったんじゃないかという気持ちもあるが、なぜなら、2008年に一緒に世界一周をした100人の被爆者の方

【3面につづく】



5・3兵庫憲法集会でスピーチを行った岡山澄子さん(5月3日、神戸・みなとのもり公園)

神戸空襲80年 第21回戦跡ウォークに100人 神戸空襲を記録する会が実施

神戸空襲から80年となる今年、神戸空襲を記録する会は第21回戦跡ウォークを6月1日、空襲で1250人が亡くなったとされる兵庫区内で実施し、スタッフを含めた約100人が戦争の傷痕が残る区内のスポットを巡った。

1945年の神戸空襲では7千人以上が犠牲となったとされており、3月17日、5月11日、6月5日の大空襲がとくに被害が大きく、神戸の市街地全土は焼け野原となった。兵庫区などは3006機のB29による3月17日の大空襲で大きな被害を受けた。

今回の戦跡ウォークで



炎と熱風に追われて逃げこんだ人たち500人が犠牲になった大輪田橋を訪れて説明を聞いた＝6月1日、神戸市兵庫区

は、初めて参加者は5つのグループに分かれ、2年前から「記録する会」が開いてきた戦跡ボランティアガイド養成講座で学んできたボランティアの人たちが5つのグループのガイド役をそれぞれ複数で担うという画期的な取り組みとなった。

2時間半あまりのウォークで巡った先は、兵庫図書館内に設けられた戦災記念資料室を皮切りに、空襲のため電話局で殉職した5人の女性職員慰霊碑がある柳原天神社、炎と熱風に追われ逃げ込んだ橋の上と下で500人以上が亡くなった大輪田橋、毎年3月17日には空襲犠牲者合同慰霊祭が開かれ、神戸空襲戦没者慰霊碑などがある葉仙寺など8カ所。過去の戦争の実相を知り、戦争の悲

惨さに思いを馳せた。なかには小学2年生の双子を連れて子どもにも神戸空襲のことを知ってもらおうと参加した母親もいた。

神戸空襲を記録する会は、戦後80年、神戸空襲80年という歴史の節目にあたり、7月には記念書籍の出版、8月にはシンポジウムの開催、11月には大和田橋の下を流れる兵庫運河のクルーズなどを計画している。

トーチを手に核兵器の廃絶などを訴えながら県内1周を走りつづける。9日朝、兵庫県庁1号館前で開かれた出発式では、今村龍乃実行委員長(自治労県本部青年女性部長)が「ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルによるガザ攻撃など、世界全体が不安定な中にあり、核兵器使用の危機も減らない。こんな時にこそ改めて平和を認識し、平和のために何ができるかを考えたい。戦後80年を迎え、記憶の継承も大事だ。このリレーを通して、学びの機会も作ってほしい」と力強く決意表明。

来賓の自治労、兵庫県職労、部落解放同盟、新社会党の各県組織代表、フォーラム平和ひょうご、

兵庫県青年女性平和友好実行委員会が主催する第39回反核平和の火リレーが6月9日から始まった。6月19日までの間、

兵庫県(総務課)からそれぞれ激励と連帯のスピチが行われた。その後、広島平和記念公園の平和の灯から採火した火が第1ランナーのトーチに灯されると、見送りの参加者から大きな拍手を受けながらリレーが出発した。

新社会党は岡崎彩子県本部書記長があいさつ。「ノーベル平和賞を受賞した被団協の皆さんの草の根の運動は、高校生平和大使などの活動につながっている。社会や政治を変える力が若い世代にある」とエールを送った。

【記録する会】HP

6.9~6.19 核兵器廃絶などを訴え 第39回反核平和の火リレー出発 平和友好祭兵庫県実行委が主催

兵庫県青年女性平和友好実行委員会が主催する第39回反核平和の火リレーが6月9日から始まった。6月19日までの間、



広島平和記念公園の「平和の灯」から採火した火のトーチを手にリレーが出発＝6月9日、県庁前

「子ども食堂」の運営、子どもの孤立を防ぐための居場所づくり、学習支援活動の中で、わずかな人数ではあるが、不登校

年間子どもらと同僚スタッフと共に育めた「想い出」の数々は、私にとっては珠玉の人生記録だ。

「子ども食堂」の運営、子どもの孤立を防ぐための居場所づくり、学習支援活動の中で、わずかな人数ではあるが、不登校

【終わる】

地域ユニオン あちこちあれこれ

国の「生活困窮者自立支援事業」を自治体として実施するにあたり、芦屋市においても社会福祉法人Y会がそれを委託し、

市内で7年前に関連業務が始まった。当初は、同法人からの業務委託として月額25万円の給与を得ていたが、市からの受託事業をさらに個人に委託するのは甚だ不適当との理

由で3年目の春にパート職員という身分に替えられて、この職務を継続した。給与額は月額15万円に一気に減額されたが、法人の経営状況等を鑑み

た。むべきだと自分に言い聞かせて、自らを鼓舞する日々であったと思う。毎月の給与は多くて8万円台で推移することになった。

の子を希望の未来へと導き、高校の卒業、大学への進学や就職活動にも貢献できた心の奥底では自負している。教員免許を持たないこの私が、7

施設の統括責任者から「次年度はお前を継続雇用しない」との通告があった。「あなたは以前からもう辞めたいと言っているから」と訳の解らない

言いつを繰り返す。この事態に、ある知り合いの社労士の方から、「こんな時には地域の『ユニオン』に相談すべき」と助言を受けたのがきっかけで、

ユニオンあしやへの扉が開かれることになった。およそ労働運動とは無縁な人生を歩んできたこの私が、ここに毅然と存在する「良心」のネットワークの人の輪の中に入

ることができた。1年間の雇止め阻止、未払い給与の獲得など、次々と勝ち取るこの力強い連帯の一員になることができたのだ。

私にとって、「雇止め」は天敵だったと思う。困難な状況は今もなお続いているが、ユニオンの皆様のご支援を夢にも忘れてはならないと思っ

【中村】

ユニオン運動で出会った良心と連帯

「斎藤知事は辞職しろ」 県庁前“人間の鎖”に150人参加



雨の中にもかかわらず150人が参加して斎藤元彦県知事を糾弾し辞職を求めた＝6月3日

公益通報者保護法違反、公職選挙法違反、元県総務部長の個人情報漏洩を斎藤知事が指示した地方公務員法違反などの疑いが、複数の第三者委員会や消費者庁、多くの報道機関、専門家などから指摘され、もはや斎藤知事では兵庫県政は立ち行かなくなっていることが明らかになった。

こうした現状を踏まえ、斎藤知事の辞職を求める第3回県庁前ヒューマンチェーンが、「兵庫県知事選挙を振り返る市民の会」の呼びかけで、定例県議会開会日の6月3日に行われた。雨にもかかわらず、約130人が参加し、県公館から県議会本会議を終えて県庁に戻る議員や職員が前を通過する中、「斎藤知事を辞めろ」

らから、県幹部や職員や政府(消費者庁)からも見放されているような状況だ。

【終わる】

兵庫県に人権と民主主義をとりもどす市民のつどい「デマにまどわされず」

●6月29日(日) 14時～17時 神戸市立婦人会館・5階「さくら」●内容①元斎藤支持者のお話②なぜ私は斎藤知事を応援し、なぜそれをやめたか③松本誠さんのお話④漂流する兵庫県政の深層⑤県会議員のお話(依頼中)⑥全体討論「斎藤知事の辞職と新たな兵庫県政実現のために私たちが何をするか」●定員180人(先着順)●資料代500円

【主催】兵庫県知事選挙を振り返る市民の会090・42688・2121

若者のひろば

「人手不足」の言葉が常に聞こえてくる介護現場、それがいったいどんな影響を及ぼしているのか。例えば、ワンフロア20人程の利用者の特別養護老人福祉施設で、3人から4人の職員で日中は利用者の方々をサポートしています。当然、交代で昼食休憩などを取っていきませんが、その間は2人、もしくは3人で利用者を見ることになり、トイレなどの介助の際に、自分で立つのが難しい利用者さんには職員が2人がかりで介助に入ることになり、フロアの利用者の見守りは残った1人の職員で行います。人手不足が常態化しているため、どうしても2人でみている日も増えていくのが現状で、トイレの入り口から半身の状態でのフロアは大丈夫かとひやひやしなが眺め、ほんの数秒でもフロアを見守れていないことがあります。

こういったことから、最近ではニュースなどでも耳にするようになった地域の方が見守りスタッフとして、ボランティアで利用者の話し相手をしていただいたりする動きが少しずつ広まってきています。仕事を定年退職後にボランティアで来てくれる方も会話をすることで、認知症の予防にも繋

がるため、こういった地域の助け合いが活性化してほしいと感じています。介護保険法で決められている最低限の人員基準は、入所者3人につき1人以上となっています。しかし、実際には有給の義務化やソフト調整などがあり、この最低基準で

介護現場の安全

き上げが始まったものの、他産業との賃金格差の縮小に向けて取り組みを進めるには、到底賄いきれない状況です。事業を継続していくためには、果たして介護保険制度はこのままでいいのか、助成金などは施設が安定的に運営するために足りているのかなど、介護を巡る問題は山積みです。社会全体でこの問題を考え議論し、協力しあいながら解決に向けて考える必要があると思います。

誰もが年齢を重ね介護を必要とする時がやってきます。また、親を介護する日もやってきます。仕事をしていたら1日中そばで親を介護することが難しい場面がでてきます。その時、仕事を続けるには施設に預ける選択もでてくることなのでしょう。しかし、今の介護現場を取り巻く状況は厳しいものがあります。今後介護を必要とする人は増え続けていきます。誰もが平等に介護を受けられるように、そこで働く介護職の待遇改善や労働環境整備をすることにより、介護現場の安全は担保され継続できるものだと思います。

(M・K)



参院選に向け垂水区でも

かい正康サポーターズの集い

7月の参院選を前に「かい正康サポーターズのつどい」が5月31日、神戸市垂水区で開かれ、読者17人が参加した。

主催者あいさつの後、チューブの『かい正康チャンネル』を視聴。初めて見る人の中には、かい正康さんの生い立ちや人間性に触れ、「ふつうに働いてふつうの生活ができる政治を」との主張の訴えから「私たちの立場で頑張っている人」とよく分かり、良い印象を持った」と感想を話す人もいた。

その後、新社会党垂水支部から選挙情勢や選挙課題についての報告と、政党要件の維持が懸かる社民党への支持の拡大の訴えがあり、ほぼすべての政党の候補者が出そろった。注目の兵庫選挙区に社民党からはきし文男さんが候補者として立候補することになり、比例区のかい

正康さんとセットでの運動が可能となったことが説明された。

その後、質問や要望も含め出席者全員から一言ずつ思いが語られた。『トラック野郎』というスローガンは初めは限定的なイメージだったが『働く者』全体という風

に広がってきたと思う」「米不足の問題等は今の大臣たちと私たちには『貴族と平民』くらいの感覚の差がある。そこを訴えたらインパクトがあるのでは?」「選挙に興味の無い若い人が関心を持ってもらうには短くても『先』の真知事選で学んだようにSNSの拡散のためにチューブはもっと訴えを短くしてもいい」との意見が出た。(菊地真千子)



参加者の全員から質問や要望など選挙への思いが語られた集い＝5月31日、神戸市垂水区

選挙区 かい正康 文男を支援する労働者決起集会

6月27日(金) 18:30～

- 日時 6月27日(金) 18時30分
- 場所 神戸市・中央区文化センター 1001、1002
- 決意表明 文男さん、かい正康さん(ビデオメッセージ)
- 記念講演 「労基法の改悪と労働組合の役割」 森博行弁護士(大阪労働者弁護団)
- 職場からの報告や応援エールなど

ミッション…インポッシブル ファイナル・レコーディング

私は、「シネマランド」の原稿を書く映画を観る時は、曖昧なことは書けないので、必ずパンフレットを購入する。あらずじを確かめることや、出演者の名前、撮影のエピソード、関連の真話などが分かり、大変重宝している。

今回の映画は、すごいシーンが多く、展開も早いので、後でじっくりとストーリーを確かめよう



とパンフレットを開いてみたのだが、ストーリーが書かれていない。やっとそれらしきページを見つけたのだが、いとも簡単に200字ほどの短文で書かれていた。あとはすべてインタビューか撮影のエピソードである。じゃあ仕方ない。思いつくままに書かねばならない。

トム・クルーズ扮するイーサン・ハントが、2つの鍵を奪って逃亡した前回作品の続きということだが、前回は知らなくとも十分に楽しめる。

世界は、エンティティという人工頭脳にどう対峙するか選択を迫られて

人工頭脳は、映画の中では「ソレ」と呼ばれている。前回の映画でイーサンが手に入れた2つの鍵をアメリカ政府に渡せば、政府は「ソレ」を使って世界を支配してしまうと考えられたので、渡すのをためらっていた。アメリカ政府の考えは、世界の核施設を先制攻撃して主導権を握る。その時、アメリカの攻撃であることとを分らないようにするため、国内の核施設のある都市をひとつ目標に加えるというおそろべき計画だった。

イーサンは、大統領から力を貸して欲しいとのメッセージを受け、そこ

シネマランド

96年から約30年にわたる人気シリーズ第8作

国から核の保管庫を乗っ取り、核によって人類滅亡を目論んでいた(この

いた。エンティティは人類を滅ぼそうとする人工頭脳で、世界中の核保有

で出会ったルーサーが「ソレ」を混乱させるためのデジタル毒薬を作っていることを知る。その毒薬をめぐって、毒薬を持って逃げる複製機を別の複製機を奪ってイーサンが追跡するシーンも手に汗を握る。

また、沈没した潜水艦・セヴァストポリス号に侵入し、「ソレ」の初期ソースコードが入ったディスクを2本の鍵を使って手に入れる場面は、ど

んとん深海中に沈み込んでいく潜水艦と、ダイビング器材のすれすれの闘いが見ものである。

この作品は、トム・クルーズのミッション…インポッシブルシリーズの8作目であり、最終作であるという。また、制作

その頃から比べると、AIの技術も格段に向上しているのかというテーマが、もう日常の問題の時代になった。(容)

監督 リクリストファ

イ・マッカーリー/20

25年/米/169分